

# コーパスを利用した複合動詞「～尽くす」の意味分析

杉 村 泰

キーワード：コーパス、コロケーション、複合動詞、「～尽くす」、日本語教育

## 1. はじめに

本稿は日本語の複合動詞「～尽くす」の意味について論じたものである。次の(1)は観衆が会場の空間を残らず埋めたこと、(2)は猛火が町中を残らず焼いたこと、(3)は私が彼に関する情報を残らず知っていること、(4)はアイデアが全て出て何も残っていないことを表すというように、「～尽くす」は前項動詞で表される行為が100パーセント達成されること（完遂）を表す。この点で、「～切る」、「～終える」などと類義関係にある表現である。

- (1) 観衆が会場を埋め尽くした。
- (2) 猛火が町を焼き尽くした。
- (3) 私は彼のことを知り尽くしている。
- (4) 私はもうアイデアが出尽くした。

本稿は、これらの複合動詞の類義分析を行なう前提として、「～尽くす」の前項動詞としていかなる動詞が来やすいかについて論じたものである。

## 2. 本動詞「尽くす」と「尽きる」の意味

本節では、本動詞「尽くす」と「尽きる」の意味について見る。まず、他動詞の「尽くす」には大きく分けて次の2つの用法がある。このうち、②は人や社会のために力を尽くすという意味であり、①の「力を」などが省略された表現であると考えられる（『使い方の分かる類語例解辞典』参照）。その他、「尽くす」は「筆舌に尽くしがたい」、「至れり尽くせり」などの慣用表現にも使われる。

- ①精一杯の努力をする（～ヲ尽くす）

- (5) {全力／最善／ベスト／心／誠意／言葉／手／贅／悪の限り／孝の道} を尽くす。

②人や社会のために尽力する（～二尽くす）

- (6) {親／会社／国}（のため）に尽くす。

一方、自動詞の「尽きる」には大きく分けて次の2つの用法がある。

①対象が消費（消去、消耗）されて完全になくなる（～ガ尽きる）

- (7) {力／アイデア／燃料／食糧／資金／寿命／運／愛想／話題} が尽きる。  
{悩み／心配／苦勞／物欲} が尽きない。

②すでに極限に達し、それ以上のものはない（～二尽きる）

- (8) {役者冥利／残念の一言／事前の対策} に尽きる。

ここで注意したいのは、「尽くす」と「尽きる」は「直す」と「直る」、「残す」と「残る」などと違い、自他の対応をしているわけではないということである（(9)～(12)）。「力を尽くす」と「力が尽きる」はいずれも自然な日本語であるが、「車を直す→車が直る」や「ご飯を残す→ご飯が残る」のように「行為→結果」の関係にあるわけではない。（「愛想を尽かす→愛想が尽きる」は自他の対応をしている）

- (9) 最善を尽くす : \*最善が尽きる  
(10) 親に尽くす : \*親が尽きる  
(11) \*燃料を尽くす : 燃料が尽きる  
(12) \*役者冥利を尽くす : 役者冥利に尽きる

複合動詞「－尽くす」はこのうちの本動詞「尽くす」の①の意味から派生して、ある行為が完遂することを表すようになったものであると考えられる。

### 3. 先行研究

「－尽くす」に関する先行研究には姫野（1999）や廖（2009）などがある。

姫野（1999）

「（杉村注：「－切る」と比べ）残余がなくなる、ゼロになるというほうに重点があり、文脈によってはマイナス評価の意味を持つことが多い」（p.179）

廖 (2009)

「～尽くす」は「食べる」、「調べる」、「売る」のような外的運動動詞と共起する場合は許容度が高くなるが、「持つ」、「澄む」、「曲がる」と共起する場合は許容度が低くなる」(p.33)

「～尽くす」の前項動詞を見ると、人間の意志によってコントロールしやすい動詞が来やすいことが分かる。ただし、例外的に「出る」(73%)だけは、「意見が出尽くす」のような無意志の表現を取ることに注意したい」(p.33)

このうち、姫野 (1999) は「～尽くす」について「残余がなくなる」という意味があると記述している。これは本動詞「尽くす」や「尽きる」に通じる意味であり、「～尽くす」の基本的な意味であると考えられる。ただし、これだけでは「～切る」との違いが明確ではないため、「～切る」との類義分析を綿密に行なう必要がある。(「～尽くす」と「～切る」の使い分けについては別稿で論じる予定である。) また、姫野 (1999) は「～尽くす」はマイナス評価の意味を持つことが多いと述べているが、「世界の珍味を食べ尽くした」は「これだけ食べれば満足だ」というプラスの意味にもなれば「もうこれ以上新しい珍味に出会うことはできず不満だ」のようにマイナスの意味にもなるというように、必ずしもマイナス評価の意味を持つことが多いとは言いきれない。このように姫野 (1999) の「～尽くす」に関する記述は感覚的なものにとどまっている。

一方、廖 (2009) は「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」の前項動詞の違いについて論じ、「～尽くす」の場合、同じ外的運動動詞でも「～尽くす」と共起しやすいものと共起しにくいものがあることを指摘するなど、資料的に興味深いデータが示されている。そこで本稿では廖 (2009) にならい、コーパスを利用して「～尽くす」の前項動詞の特徴を見ることにより、「～尽くす」の意味について分析することにする。

#### 4. コーパス調査

本稿ではインターネットの WWW ページをコーパスとして、「～尽くす」の前項動詞の特徴を見る。WWW ページをコーパスとして使うことに関しては、「不自然な表現が混じる」、「データの保存性が悪い」などの批判もある。この点について石川 (2009) は、WWW ページ (媒介型 Web as Corpus) と「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の2つから出現する基本語の頻度を統計的に比較して、「WWW が日本語の基本語の頻度研究において一定の信頼性と有用性を持つことが実証的に示された (p.36)」と指摘している。また、荻野 (2007) は「WWW をデータベースとして考えると本質的な欠陥があるのだが、検索エンジンの返してくる検索件数を単純に信じるのではなく、WWW 上の用例を

個別に読みながら利用すれば、使い物になる面があるのではなからうか (p.32)」と主張している。

このように WWW ページは巨大データを検索エンジンで手軽に検索できるため、使い方次第で有用なコーパスになると考えられる。WWW ページには不自然な表現が混じるという点についても、「ある表現がどの程度不自然なのか」、「中心的な用法から周辺的な用法までいかにして広がっているか」といったことを知るには極めて有利なコーパスであると考えられる。<sup>1)</sup>

以下、本稿で使用したコーパスの概要を記しておく。

① CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』

検索対象：日本人作家による 67 冊

検索方法：ソフトに付いている検索機能で「尽」、「つく」が付く表現を全て検索し、その中から複合動詞「－尽くす」を抽出した。(名詞の「～尽くし」は含まれていない)

② インターネットの WWW ページ

検索エンジン：goo のフレーズ検索 (<http://www.goo.ne.jp/>)

検索日：2009 年 2 月 21 日～2009 年 3 月 8 日

検索方法：前項動詞は『日本語基本動詞用法辞典』にある 852 語を含む 1,068 語を対象とし、これらと漢字表記の「－尽くす」、「－尽くした」、「－尽くさない」、「－尽くさなかった」、「－尽くします」、「－尽くしました」、「－尽くしません」、「－尽くして」の共起について検索した。表 2 にはその合計ヒット数を示してある。(連用形の「－尽くし」は名詞の「～尽くし」も多数含まれるため検索対象から外した)

## 5. CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』の検索結果

CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』からは合計 239 例の「－尽くす」が出現した。前項動詞の異なり語数は 72 語であった。これを表 1 に示す。

表1 「-尽くす」の出現数（『新潮文庫の100冊』）<sup>2)</sup>

	前項動詞	出現数		前項動詞	出現数		前項動詞	出現数
1	立つ	46	11	燃える	4	ク	失う	3
2	埋める	19	ク	食べる	4	ク	散る	3
3	知る	18	ク	嘗める	4	23	殺す	2
ク	覆う	18	ク	する	4	ク	使う	2
5	食う	11	15	読む	3	ク	傾ける	2
6	言う	8	ク	出す	3	ク	貪る	2
7	破壊する	6	ク	捧げる	3	ク	飲む	2
ク	見る	6	ク	吸う	3	ク	極める	2
9	焼く	5	ク	味わう	3	ク	落ちる	2
ク	しほる	5	ク	泣く	3	30	※下記	1

※出現数1の語（殺す、燃やす、焚く、切る、流す、落とす、売る、傾ける、注ぐ、用いる、漑う、汲む、書く、調べる、考える、喋る、説く、語る、戦う、しゃぶる、わきまえる、座る、出る、濡れる、点る、抜ける、消化する、消費する、消耗する、吸収する、採集する、包容する、整頓する、閲する、愛する、計算する、魅了する、鍛錬する、承知する、繁茂する、憔悴する、発達する、限定される）合計 43 語

このうち、出現数1位から5位までの表現を次の(13)～(17)に示す。

- (13) 「さあ、帰ろうかしら……」とベランダから戻りかけたとき、突然、明かりが消えた。伸子は一瞬ポカンとして立ち尽くした。(赤川次郎『女社長に乾杯!』)
- (14) やっと東練兵場の角へ出た。まるで見渡す限りの避難者の群で、広い練兵場は人波で埋め尽されていた。(井伏鱒二『黒い雨』)
- (15) 結婚というのは互いに相手の人を知り尽し、意気相投合し、愛し合って行くべきものです。(渡辺淳一『花埋み』)
- (16) もっと降って、あの村を覆い尽し、雪饅頭のようにすっぽりと埋めてしまえばいい。(筒井康隆『エディプスの恋人』)
- (17) 船は白蟻によって食いつくされているという報告を今日、受けました。(遠藤周作『沈黙』)

## 6. Web 検索の結果

次に Web 検索の結果を見る。今回調査した 1,068 語の動詞のうち、「-残す」と1件以上共起したものは 645 語であった。このうちヒット数上位 60 位までを示すと表2のようになる。表2でも、CD-ROM 版『新潮文庫の100冊』の調査で上位に来た「立ち尽くす」、「埋め尽くす」、「知り尽くす」、「覆い尽くす」、「食いつくす」が上位に来ている。

表2 「一尽くす」と共起する動詞上位60語（WWW ページより）

	前項動詞	ヒット数		前項動詞	ヒット数		前項動詞	ヒット数
1	知る	267,415	21	読む	6,529	41	採る	1,158
2	埋める	173,491	22	飲む	5,473	42	減らす	1,002
3	立つ	100,355	23	書く	5,161	43	燃える	990
4	出る	71,962	24	行く	3,762	44	愛する	955
5	食べる	55,672	25	売る	3,492	45	説明する	936
6	語る	53,391	26	考える	3,353	46	乗る	888
7	食う	44,835	27	計算する	3,348	47	責める	808
8	焼く	43,758	28	取る	2,679	48	走る	667
9	覆う	38,202	29	描く	2,655	49	探す	659
10	吸う	27,622	30	殺す	2,563	50	与える	611
11	出す	25,309	31	奪う	2,563	51	汚す	590
12	やる	19,232	32	掘る	2,172	52	話す	524
13	使う	14,517	33	歩く	2,151	53	理解する	489
14	遊ぶ	14,111	34	撮る	1,685	54	捕る	422
15	燃やす	11,448	35	歌う	1,611	55	泣く	398
16	見る	8,314	36	買う	1,582	56	切る	376
17	調べる	8,215	37	利用する	1,582	57	獲る	368
18	言う	7,769	38	打つ	1,565	58	感じる	350
19	研究する	7,152	39	表現する	1,253	59	流す	345
20	撃つ	6,975	40	呑む	1,185	60	整理する	341

## 7. 複合動詞「一尽くす」の意味

### 7. 1 行為の完遂

次に複合動詞「一尽くす」の意味について見る。「一尽くす」は前項動詞で表される行為を一つ一つ成し遂げていき、100パーセント達成されること（完遂）を表す。これには次の①～⑦のような用法がある。このうち、①～③の前項動詞はいわゆる他動詞であり、④～⑦の前項動詞はいわゆる自動詞である。

①ヲ格で示される空間全体に対象物を隙間なく敷き詰めることを表す

「(観衆が会場を／会場を観衆で) 埋め尽くす」、「(暗雲が村を) 覆い尽くす」

②ヲ格で示される対象を全て消費（消去、消耗）することを表す

「(食糧を) 食い尽くす」、「(町を) 焼き尽くす」

③ヲ格で示される対象全てに対して当該の行為を行うこと表す

「(彼のことを) 知り尽くす」、「(言いたいことを) 言い尽くす」

④ヲ格で示される場所全てに対して当該の行為を行うこと表す

「(日本中の行楽地を) 遊び尽くす」、「(北京中の胡同を) 歩き尽くす」

- ⑤ニ格で示される場所全てに対して当該の行為を行うことを表す

「(世界遺産の全てに) 行き尽くす」

- ⑥ガ格で示される対象が全て消費されることを表す

「(アイデアが) 出尽くす」、「(町が) 燃え尽くす」

- ⑦驚きなどのため、ガ格で示される主体の気が抜けて立ったまま動けなくなることを表す

「(彼は呆然と) 立ち尽くす」

このうち、①と②は視覚的に出現や消滅する対象が見えやすく、その対象をガ格にすえて「(会場が人で) 埋め尽くされる」、「(村が暗雲で) 覆い尽くされる」、「(食糧が) 食い尽くされる」、「(町が) 焼き尽くされる」のように受動文にすることができる。これに対し、③は視覚的に対象が見えにくく、その対象をガ格にすえて「? (彼のことが) 知り尽くされる」、「? (言いたいことが) 言い尽くされる」のように受動文にすると不自然な文になる。ただし、①～③の区別は必ずしも明確ではなく、いずれも前項動詞で表される行為の完遂を表す点で共通している。

一方、前項動詞にいわゆる非能格自動詞が来る④と⑤は、③と同様に受動文にしにくく、前項動詞で表される行為の完遂を表す。この場合、前項動詞の「遊ぶ」、「行く」、「歩く」、「乗る」、「走る」などは一般に自動詞と呼ばれているが、ヲ格やニ格で示されるものを順次「消費」していくことを表すため、他動詞的な意味で使われている。((18) ～ (22))

- (18) 「世界中の海や山を遊び尽くす」旅に出るため、今年1月に事業の継承を完了。

(<http://www.nextone.jp/no050804/va/va03.html>) 2009/2/21

- (19) 日本中の美味しいと言われてる、お蕎麦屋さんに行き尽くしました。

(<http://r.tabelog.com/osaka/A2703/A270303/27017524/>) 2009/2/21

- (20) 昔ながらの名前がついた通りがたくさんある「ハノイ36通り」を縦横無尽に歩き尽くします。

([http://www.nhk.or.jp/sekaimachi/dvd01\\_10.html](http://www.nhk.or.jp/sekaimachi/dvd01_10.html)) 2009/2/21

- (21) 全ての路線を乗り尽くすことは、鉄道ファンの夢である。

(<http://store.shopping.yahoo.co.jp/esdigital/4988017210734.html>) 2009/3/7

- (22) もう街中の道という道は走り尽くしたに違いない。

([http://sportsnavi.yahoo.co.jp/soccer/eusoccer/spain/column/200306/0625kimu\\_02.html](http://sportsnavi.yahoo.co.jp/soccer/eusoccer/spain/column/200306/0625kimu_02.html)) 2009/3/7

次の⑥はいわゆる非対格自動詞が来る例で、「出し尽くす」に対する「出尽くす」、「燃やし尽くす」に対する「燃え尽くす」のように「行為→結果」における結果の意味を表している。この場合、影山（1993）の他動性調和の原則に従えば、「出る」や「燃える」は非対格自動詞であるため、後項動詞も他動詞の「尽くす」ではなく非対格自動詞の「尽きる」となり、「出尽きる」、「燃え尽きる」と言うはずである。しかし、「\*出尽きる」という表現は非文法的であり、「#燃え尽きる」は「蠟燭が燃え尽きる」のようにそれ自体の主体的変化として捉えられる場合には使われるが、行為の結果を表す場合には「\*町が燃え尽きる」ではなく「町が燃え尽くす」と言うのが自然である。（(23)～(26)）

- (23) ここで過去の膿を出し尽くしませんか？

(<http://piza.2ch.net/log/pet/kako/950/950482366.html>) 2009/2/27

- (24) MLB ライブの視聴者の方も多いと思いますが、我々ファンが眼をそらしたら決してこの問題の膿は出尽くしません。

([http://blog.skyperfectv.co.jp/mlb/archives/2007/05/27\\_0627\\_57.html](http://blog.skyperfectv.co.jp/mlb/archives/2007/05/27_0627_57.html)) 2009/2/27

- (25) アメリカで特許を取得している強力な燃焼成分が体にこびりついた脂肪を徹底的に燃やし尽くす。

(<http://www.beauty-s.com/item/5570.html>) 2009/3/8

- (26) 完全燃焼 酸素が十分に供給され、燃えるべきものがすべて燃え尽くした状態。

(<http://www.weblio.jp/content/%E5%AE%8C%E5%85%A8%E7%87%83%E7%84%BC>) 2009/3/8

このように「-尽くす」の前項動詞に非対格自動詞が来る例は、「出尽くす」と「燃え尽くす」がほとんどである。ただし、Web 検索では「焼き尽くす」(43,758 件)に対する「焼け尽くす」(129 件)、「流し尽くす」(345 件)に対する「流れ尽くす」(51 件)、「売り尽くす」(3,492 件)に対する「売れ尽くす」(30 件)、「減ぼし尽くす」(1,002 件)に対する「減び尽くす」(28 件)なども出現する。（(27)～(34)）これらの表現は「-尽くす」の周延的な用例であると考えられる。

- (27) 彼は山火事から避難しながら、山火事の様子を観察していました。火は大きな木も小さな木も草も一つずつ焼き尽くしていることに気がつきました。

([http://76263383.at.webry.info/200901/article\\_17.html](http://76263383.at.webry.info/200901/article_17.html)) 2009/3/8

- (28) なにしろ大円寺から出たとされる火は、またたく間に燃え広がりなんと今の山手線を軽くまたぎ、神田、浅草、千住のほうまで江戸の大半を焼け尽くし



てしまったのです。

(<http://www2.atpages.jp/golber4/08-haru-gajoen-1.htm>) 2009/3/8

- (29) 彼が死んだあの時に、涙は全部流し尽くした。

(<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/ryouot/trigun/Shokuzai.htm>) 2009/3/2

- (30) こんな呪われた血など一滴残らず流れ尽くしてしまえばいい。

(<http://www5b.biglobe.ne.jp/~shidara/c-novel/c-novel12-7a.htm>) 2009/3/2

- (31) 家、家財道具までみんな売り尽くして、残ったのは借金の山。

(<http://www.100nen.com.br/ja/roukuren/000155/20071110003888.cfm>) 2009/2/22

- (32) 自転車も安くなりましたね。もう一台買えば良かった。再度見に行ったらもう全て売れ尽くして無くなっておりました、残念！

([http://blogs.yahoo.co.jp/home\\_saku/MYBLOG/comment.html](http://blogs.yahoo.co.jp/home_saku/MYBLOG/comment.html)) 2009/2/22

- (33) 我々は町を一つ残らず占領し、町全体、男も女も子供も滅ぼし尽くして一人も残さず、家畜だけを略奪した。

(<http://unkar.jp/read/academy6.2ch.net/sociology/1089216944>) 2009/3/7

- (34) 普通の人は、曾孫、ないしは曾々孫の代には、生きていた証がほぼ滅び尽くしてしまいます。

([http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1222981247](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1222981247)) 2009/3/7

最後に挙げた⑦の「立ち尽くす」は、主体が立ったまま動けなくなることを表す表現であり、他の「-尽くす」と違って行為の完遂を表すわけではない。この場合、立つのは一回だけであり、ヲ格やニ格で示される補語は存在しない。「立ち尽くす」は「-尽くす」の中でも例外的な表現であり、「これ以上動く余地がない」という残余のなさを表す点において他の「-尽くす」と共通している。なお、Web 検索では「座り尽くす」という表現も 66 件出現した。これは座ったまま呆然となることを表しており、「立ち尽くす」から派生してできた表現であると考えられる。((35)、(36))

- (35) 遠くで手ぬぐいを被ったゼンが驚いて振り返ったが、茫然と立ち尽くしたまましばらく動きが止まった。

(<http://nazokobo.hp.infoseek.co.jp/pochi6.html>) 2009/2/27

- (36) 曲を作ってるが、昔のようにいかない。ギターを持ったまま立ち尽くす、いや、座り尽くすばかり。

(<http://d.hatena.ne.jp/maTree/>) 2009/2/27

## 7. 2 複数の事態

上で論じたように「-尽くす」は行為の完遂を表す表現である。この点で、「-切る」、「-終える」などと類義関係にある。(姫野 1999、廖 2009 など参照) このうち、「-切る」と「-尽くす」を比べると、(37) は彼が世界の珍味のうちの一つを残さず食べたという意味になり、(38) は彼が世界のあらゆる種類の珍味を全て口にしたという意味になる。後者の場合、個々の料理について必ずしも完食する必要はない。

(37) 彼は世界の珍味を食べ切った。

(38) 彼は世界の珍味を食べ尽くした。

以上のことから、「-切る」は事態を丸ごと一回的なものとして捉え、その事態が100パーセント達成されることを表すのに対し、「-尽くす」は事態を複数のものとして捉え、全ての事態が残らず履行されることを表すという点に違いのあることが分かる。

実例では、「-尽くす」は(39)～(41)のような複数の事態のみならず、(42)～(44)のように一見一回的事態のように見える場合にも使われる。しかし、(42)～(44)の場合もそれぞれのコースをいくつかの区間に分け、その全てについて行為を行ったことを表すと考えれば、これも複数の事態に使われた表現であることが分かる。

〔複数の事態〕

(39) 全ての路線を乗り尽くすことは、鉄道ファンの夢である。

(<http://store.shopping.yahoo.co.jp/esdigital/4988017210734.html>) 2009/3/7

(40) もう街中の道という道は走り尽くしたに違いない。

([http://sportsnavi.yahoo.co.jp/soccer/eusoccer/spain/column/200306/0625kimu\\_02.html](http://sportsnavi.yahoo.co.jp/soccer/eusoccer/spain/column/200306/0625kimu_02.html)) 2009/3/7

(41) 東京都港区の坂を上り尽くすという企画『ツールドみなとく～坂三昧』は明日開催します！

(<http://bd1tsukin.exblog.jp/8595575/>) 2009/3/7

〔(一見)一回的事態〕

(42) 周遊券を手にとすると端から端まで乗り尽くさないと気が済まない。

(<http://blog.livedoor.jp/rail777/archives/51429413.html>) 2009/3/7

(43) 残る一般2区間で、原爆ドームと厳島神社を結ぶ48.0キロのコースを走り尽くす。

(<http://www.chugoku-np.co.jp/ekiden/2009/Special/Em09011101.html>) 2009/3/7

(44) 一直線に森を切り開いた道を、上り尽くす。

(<http://yamaiga.com/road/kawaguti/main3.html>) 2009/3/7

なお、次の(45)～(48)の「冷え尽くす」、「惚れ尽くす」、「悩み尽くす」、「疲れ尽くす」は複数の事態に使われた表現とは考えにくい。この場合、(45)は「冷え切った」、(46)は「惚れ込む」、(47)は「悩み抜く」、(48)は「疲れ切る」と言うのが普通であると思われる。そこにあって「-尽くす」が使われることにより、「消費が経済のあらゆる面で冷える」、「彼のあらゆる面に惚れる」、「あらゆることについて悩む」、「たくさんの疲れがたまった」といった複数の意味を持つ強調表現となっている。

- (45) 消費が冷え尽くした今、市場を自ら切り開くような独創性が求められている時代です。

([http://www.gikekou.npo-jp.net/seminor\\_h14/kougiroku/9th.doc](http://www.gikekou.npo-jp.net/seminor_h14/kougiroku/9th.doc)) 2009/3/7

- (46) 事実、現在交際の公認彼氏・牧瀬義純のことをダーリンと呼び、ぞっこん惚れ尽くしている。

(<http://www.getchu.com/soft.phtml?id=267165>) 2009/3/7

- (47) 彼も、自分同様、悩むときは徹底的に悩み尽くすタイプである。

(<http://www.sun-inet.or.jp/~qze13054/menu%2008.9.html>) 2009/3/7

- (48) それにとことんまで疲れ尽くした体で道などあるわけもない険しい山を下るのは、いくら山に慣れた僕でも辛く苦しく物悲しく、二、三分進んだだけなのにもう肉体的にも精神的にもぼろぼろだった。

(<http://ncode.syosetu.com/n0284f/13.html>) 2009/2/27

## 8. まとめと今後の課題

以上、本稿ではコーパスを利用して複合動詞「-尽くす」の意味について分析した。その結果、「-尽くす」は複数の事態において前項動詞で表される行為を一つ一つ成し遂げていき、100パーセント達成されていること（完遂）を表すことを明らかにした。この点で、一回的事態の完遂を表す「-切る」や行為の時間的終結を表す「-終える」とは異なる。今後は「-尽きる」、「-終わる」、「-果たす」、「-果てる」などを含め、行為の完遂・終了と関わる表現の類義分析を進めていきたい。また、「-尽くす」や「-切る」による「完遂」の意味は、裏から見れば「やり残し」がないことを表す表現でもある。したがって、行為の未完了を表す「-残す」との関係も見えていく必要がある。これらの複合動詞の関係を次の図に示す。

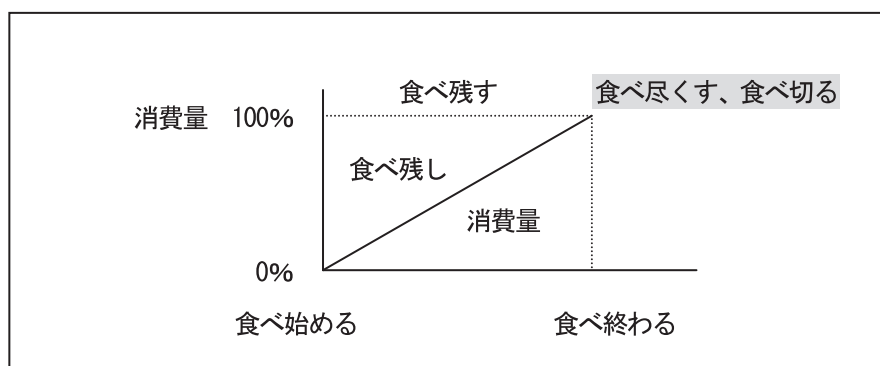


図 「食べる」のアスペクト的關係図

今後は本稿や杉村（2008a、2008b）で行なった個別の複合動詞の研究を総合し、広い意味でのアスペクトを表す複合動詞の体系を構築していきたいと考えている。

付記：本稿平成 19-21 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（課題番号 19520451）による研究成果の一部である。

## 注

- 1) 杉村（2007）では、WWW ページが有用なコーパスとなりうることを実際の言語分析を通して論じている。
- 2) 「覆い」、「掩い」、「蔽い」、「被い」、「おい」のように表記の違うものもまとめて示してある

## 参考文献

- 石川慎一郎（2009）「日本語基本語研究における非統制型・統制型・媒介型 Web as Corpus の可能性—一言語コーパスにおける基本語頻度の安定性について—」『特定領域研究「日本語コーパス」平成 20 年度公開ワークショップサテライトセッション予稿集』、文部科学省科学研究費特定領域研究「代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築：21 世紀の日本語研究の基盤整備」統括班、29-38
- 荻野綱男（2007）「コーパスとしての WWW 検索の活用」『月刊言語』第 36 巻第 7 号、大修館書店、26-33
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』、ひつじ書房

- 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹（1989）『日本語基本動詞用法辞典』，大修館書店
- 小学館辞典編集部（1994）『使い方の分かる類語例解辞典』，小学館
- 杉村 泰（2007）「インターネットを利用した日本語の類義分析」『月刊言語』第36巻第7号，大修館書店，42-49
- （2008a）「複合動詞「～切る」の意味について」『言語文化研究叢書』7，名古屋大学大学院国際言語文化研究科，63-79
- （2008b）「コーパスを利用した複合動詞「～残す」の意味分析」『言語文化論集』第30巻第1号，名古屋大学大学院国際言語文化研究科，47-60
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』，ひつじ書房
- 廖 紋淑（2009）「複合動詞「～終わる」、「～切る」、「～尽くす」の使い分けに関する覚え書き—日本語母語話者と日本語学習者の比較—」『言葉と文化』，名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻，25-43

